

## ZAO Wou-Ki



アーティゾン美術館蔵書展示

INFO ROOM

## ZAO Wou-Ki

## 書籍案内

本展で紹介した詩や小説の日本語訳は、下記の書籍で読むことができます。

1. ルネ・シャール「庭の仲間たち」  
- 『ルネ・シャール全集』吉本素子訳、青土社、2020年、261-264頁
2. アンドレ・マルロー「西欧の誘惑」  
- 『マルロー／サルトル 芸術論／自由と状況 他（世界の大思想、III-12）』小松清、松浪信三郎ほか訳、河出書房新社、2005年、117-180頁
3. アンリ・ミショー「様々の瞬間」  
- 『アンリ・ミショー全集II』小海永二訳、青土社、1986年、487-492頁  
\*「様々の場所、様々の瞬間、『時間』の横断」というタイトルで収録。

日本語で読めるザオ・ウーキーの文献としては、下記の展覧会図録があります。

- 石橋財団ブリヂストン美術館編『ザオ・ウーキー展』石橋財団ブリヂストン美術館、2004年
- 石橋美術館編『ザオ・ウーキー』石橋美術館、1995年
- 内山武夫ほか編『ザオ・ウーキー展：油彩と墨絵』国際文化交流協会、1982年

ザオの挿絵本について知ることができる文献としては、フランス語で書かれた下記書籍があります。

- Céline Chicha and Marie Minssieux-Chamonard, dir. *Zao Wou-Ki: Estampes et Livres Illustrés*. Paris: Bibliothèque nationale de France, 2008.
- Text by Daniel Marchesseau, et al. *Zao Wou-Ki: Peintures, Encres, Gravures, Livres d'Artiste*. Angers: Musées d'Angers, 1998.
- Text by Dominique de Villepin. *Zao Wou-Ki et les Poètes*. Paris: Albin Michel, 2015.

本冊子のテキスト作成にあたり上記を参照しました。

## アーティゾン美術館蔵書展示

## ザオ・ウーキーと文筆家たち

会期：2022年1月29日（土）～4月10日（日）

会場：アーティゾン美術館 4階 インフォールム

企画・編集・執筆：黒澤美子

印刷：株式会社野毛印刷社

発行：公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館

発行日：2022年1月29日

〒104-0031 東京都中央区京橋 1-7-2

www.artizon.museum

©2022 Artizon Museum, Ishibashi Foundation

©2021 by ProLitteris, Zurich & JASPAR, Tokyo C3708

## ザオ・ウーキーと文筆家たち

現在6-4階で開催している「はじまりから、いま。1952-2022 アーティゾン美術館の軌跡」展では、国内最大級のザオ・ウーキー・コレクションが公開されています。そこでご覧いただけるような大型の絵画を制作する一方でザオは、書籍の挿絵制作に生涯を通じて取り組んだ画家でもありました。ここでは、画家と文筆家たちとの交流が垣間見える挿絵本を、当館の貴重図書コレクションからご紹介いたします。



安齊重男《ザオ・ウーキー、パリ、1975年9月》1975年／2017年

ゼラチンシルバークラウド、35.3×27.8cm、石橋財団アーティゾン美術館蔵  
ANZAI Shigeo. *Zao Wou-Ki, Paris, September 1975*. 1975/2017, Gelatin silver print  
35.5 x 27.8 cm, Artizon Museum, Ishibashi Foundation © Estate of Shigeo Anzai

ザオ・ウーキー（1920-2013）は中国書画の伝統に根ざしながら、第二次大戦後の西洋の前衛芸術を吸収し、抽象絵画に独自の境地を切り開いた画家です。中国で生まれ、杭州の美術学校卒業後は同校の講師になりますが、28歳で新しい芸術を求めパリへ渡りました。異国の地で画家の名を美術界に知らしめたのは、本の挿絵となった版画でした。それを皮切りに、出版社や作家から挿絵の依頼が次々と舞い込み、生涯で30冊以上の小説や詩集に挿絵を制作しました。ザオは「中国の伝統においては、絵画と詩は密接に結びついている」と述べています。画中に漢詩が書きこまれる書画に親しんで育った画家にとって、絵と言葉が織りなす書物の世界とかかわりを深めていくことは、ごく自然なことでした。今回はそのなかでもザオの画家人生にとって重要な文筆家たちと取り組んだ作品で、画風の変遷も追うことができる3冊——ルネ・シャール著『庭の仲間たち』（1957年）、アンドレ・マルロー著『西欧の誘惑』（1962年）、そしてアンリ・ミショー著『受胎告知／瞬間』（1996年）をご紹介します。

ザオはパリに到着した翌年の1949年、デスジョベールという版画工房を知り、リトグラフの技法に魅了されます。そこで制作したリトグラフが挿絵本として刊行されたことをきっかけに、ザオのもとには次々と本の挿絵の仕事が舞い込むようになりました。その初期、3冊目の挿絵本が、ルネ・シャール著『庭の仲間たち』です。ルネ・シャール(1907-1988)はフランスの詩人で、前衛芸術家たちとたびたび詩画集を共同制作していましたが、ザオとの交流はまだ生まれていませんでした。当時抽象画家として頭角を現してきていた画家を、編集者のルイ・プロデールが著者に提案したのです。その後二人は仕事を重ね、ザオの展覧会カタログにシャールが序文を寄せるほど親しくなりました。

1. ザオ・ウーキー《ルネ・シャール著『庭の仲間たち』のための挿絵》パリ:ルイ・プロデール、1957年刊  
石橋財団アーティゾン美術館蔵  
ZAO Wou-Ki. *Illustration for "Les Compagnons dans le Jardin" by René Char*  
published in 1957 by Louis Broder, Paris.  
Artizon Museum, Ishibashi Foundation

本書は、花や樹木の喩えを用いながら、時の経過とともに移ろいゆく人間の儚さと希望を浮かび上がらせる詩「庭の仲間たち」などを収録しています。それに対しザオは、絶えず形を変える庭のごとく、形が失われていく過程のような、あるいは新しい形がうごめき生成されるような、不思議なイメージを4点添えました。この微細な表現には、ドライポイントという細かな線を描ける技法が活かされています。何かの記号とも、模様とも、または痕跡とも受け取ることのできる線描の集まりには、1950年代後半になって具象から抽象へ移行する過渡期の作風を見てとることができるでしょう。

そこには、伝統的な中国絵画の手法にとどまらず、西洋絵画の技法によって独自の表現を獲得したザオの芸術と、まさに呼応するものがあります。渡仏後取り組んできた創作的探求が実を結び始めた1960年から70年にかけてザオは、帯状に色を塗り分けた背景の上に、素早い筆致で線を走らせる作品を数多く制作しました。1962年に刊行された本書の挿絵も、その時代の画風を示す好例と言えるでしょう。ザオは本書の制作を通じてマルローの知遇を得ます。以降、マルローは彼の最大の支援者の一人となり、2年後にはマルローの助力により、ザオはフランス国籍を取得しました。

ザオの画家人生にとって最も重要な作家が、詩人であり画家でもあったアンリ・ミショー(1899-1984)です。デスジョベール工房でザオが制作した8枚のリトグラフを見てただちに魅了されたミショーは、それに8編の詩をよみました。それらがパリのラ・ユヌヌギャラリーで展示され、『ザオ・ウーキーの8つのリトグラフの見方』と題した挿絵本として刊行されると、ザオの名がパリの画壇で広く知られるようになりました。

3. ザオ・ウーキー《アンリ・ミショー著『受胎告知／様々の瞬間』のための挿絵》パリ:レ・ビブリオフィル・ド・ロトモビル・クラブ・ド・フランス、1996年刊  
石橋財団アーティゾン美術館蔵  
ZAO Wou-Ki. *Illustration for "Annonciation et Moments" by Henri Michaux*  
published in 1996 by Les Bibliophiles de l'Automobile-club de France, Paris.  
Artizon Museum, Ishibashi Foundation

ミショーは画商や出版社、他の作家たちにザオを紹介し、交流の輪を広げてくれました。1970年頃にザオが妻の闘病生活を支えるため大型の油絵制作を控え、幼少期から慣れ親しんだ墨を用いた制作を始めた際、彼の墨絵の良さを見出し励ましてくれたのもミショーでした。それまでザオは、中国絵画の伝統技法を用いることで安易な「シノワズリー(中国趣味)」に陥ることを恐れて墨の使用を避けていましたが、ミショーの助言により1970年代半ばからは積極的に墨を用いた表現に挑みました。そして、西洋でも東洋でもない自分自身の絵画言語を獲得したのです。

ミショーの二つの詩が収められた詩集『受胎告知／様々の瞬間』は、墨を自分の表現として手に入れたザオの創造の息吹が7点のアクアチントに生き生きと表れた、画家円熟期の挿絵本です。「受胎告知」は本書で初めて公表されましたが1964年に書かれていた詩で、また「様々の瞬間」は1967年に別の本で発表されていたものです。いずれも、後にミショーの遺言後見人となるヴェトナム人女性医師ミシュリーヌ・ファンキムに捧げられた詩でした。1996年になって、これら2つの詩をあわせ、ザオの挿絵を添えて新たな1冊として本書が刊行されました。様々な瞬間を瑞々しいことばで捉えた詩に、墨の瞬きにも見える挿絵が見事に響き合っている一冊です。

2. ザオ・ウーキー《アンドレ・マルロー著『西欧の誘惑』のための挿絵》ブザンソン:レ・ビブリオフィル・コントワ、1962年刊、石橋財団アーティゾン美術館蔵  
ZAO Wou-Ki. *Illustration for "La Tentation de l'Occident" by André Malraux*, published in 1962 by Les Bibliophiles comtois, Besançon. Artizon Museum, Ishibashi Foundation

フランスの作家で政治家でもあったアンドレ・マルロー(1901-1976)は1926年に小説『西欧の誘惑』を上梓しました。マルローがフランスの文化相を務めていた1962年、それが新たに挿絵本として出版されることとなり、編集者の依頼でザオが同書に10点のリトグラフを制作しました。

本書は、中国にいるフランス人の青年とパリにいる中国人の青年が往復書簡を交わすという形式によって、西洋と東洋の文明対比が展開される物語です。マルローは東洋の思想や感受性に、西洋文化の課題を解決する糸口を探ろうとしていたのかもしれませんが。